

北区大学連携 未来のまちづくり事業
2024 年度報告書

2025 年 2 月発行

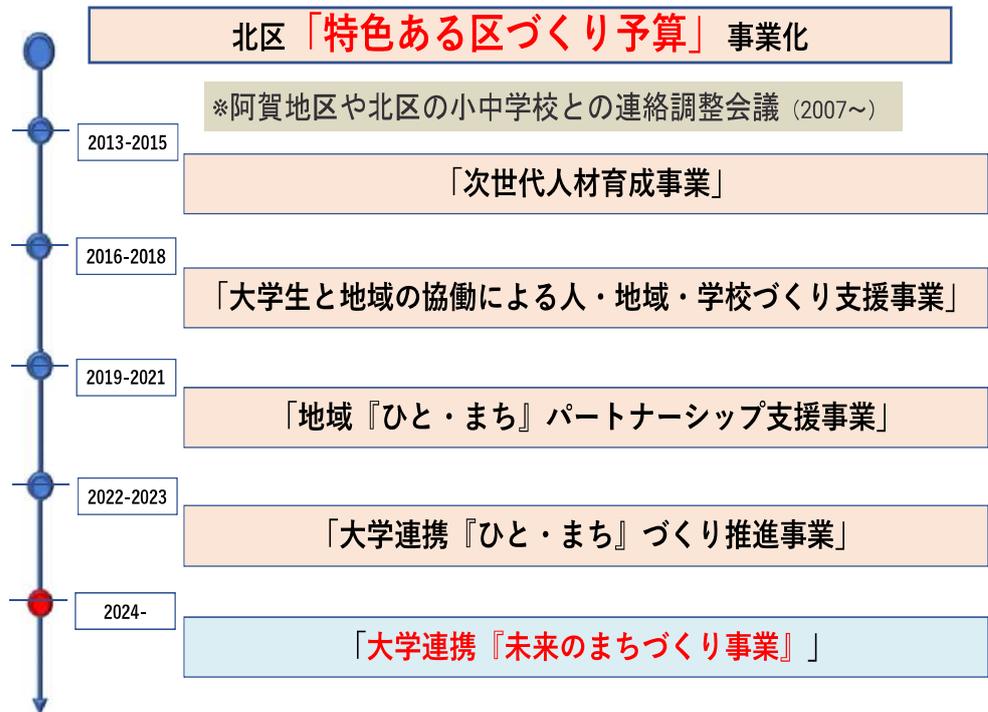
新潟医療福祉大学

目次

1. 本事業の概要
2. 講座1：あなたのお子さんの体力は？子どもの体力を知って、伸ばしましょう！
3. 講座2：健康の維持と向上を目的とした鍼灸治療の学びと体験
4. 講座3：自身の体を知り、健康増進・転倒予防・関節痛予防を行ってみましょう！
5. 講座4：災害発生！ その時どう動く！？ ～答えのない戦い～
6. 講座5：留学生と学び、体験しよう！～留学生による国際理解・体験講座～
7. 講座6：なぜスポーツは面白いのか？教養としてスポーツを学ぼう！
8. 総括

1. 本事業の概要

新潟医療福祉大学（以下、本大学）は、新潟市北区の「特色ある区づくり予算」事業（以下、本事業）として、2013年度から各事業目的に沿った連携事業を展開してきた。



- 事業目的の流れ -

「次世代人材育成事業支援」

・学生の実践力(知識・技術等)を活用し、小・中学校及び高等学校の学習環境等のバックアップと、次世代を担う小学生、中学生及び高校生が生きる力を身につけることを支援するとともに、**活力あるまちづくりに向けた基盤整備**を図る。

「大学生と地域の協働による人・地域・学校づくり支援事業」

・次世代を担う小学生・中学生及び高校生が生きる力を身につける力を支援する。
 ・学生の実践力(知識・技術等)を活用し、小・中学校及び高等学校の学習環境等をバックアップするとともに、**活力あるまちづくりに向けた基盤整備**を図る。
 ・**地域のイベント等に大学生を派遣し、まちづくりに向けた基盤形成**の機運を高める。

「地域『ひと・まち』パートナーシップ支援事業」

・区の一体感の醸成の取り組みや**地域の「ひと・まち」づくりを深化**させるため、地域において活動する大学生を「ひと・まち」づくりパートナー(タッグパートナー)として地域コミュニティ協議会や学校等に派遣する。併せて大学生が人と人、地域と地域、人と地域を結び付ける役割を担うことで、区の一体感の醸成を図る。

2024年度は、「大学連携『未来のまちづくり事業』」とし、**本大学プロデュース「心も体も健幸プロジェクト」**を実施した。具体的には、本大学の教職員および学生による6講座を北区住民に対して開講した。会場は、北区のLAGUNA SQUARE内のまちなかキャンパスおよびコミュニティゾーンを使用して行った。講座の詳細は、各講座の報告書を参照して頂きたい。講座毎に参加者との「交流会」を設定して、受講者、学生、北区担当者、講師間で講座の感想や北区への要望などの意見交換を行った。

講座名・講師

講座1：あなたのお子さんの体力は？子どもの体力を知って、伸ばしましょう！

講師：三瀬貴生

講座2：健康の維持と向上を目的とした鍼灸治療の学びと体験

講師：江川雅人・金子総一郎・福田晋平

講座3：自身の体を知り、健康増進・転倒予防・関節痛予防を行ってみましょう！

講師：佐藤成登志・神田賢

講座4：災害発生！ その時どう動く！？ ～答えのない戦い～

講師：高橋司

講座5：留学生と学び、体験しよう！～留学生による国際理解・体験講座～

講師：留学生

講座6：なぜスポーツは面白いのか？教養としてスポーツを学ぼう！

講師：西原康行



北区大学連携「未来のまちづくり」事業
心も体も健幸プロジェクト

【講座1】 子どもの体力向上プログラム

健康スポーツ学科 三瀬 貴生

講座の概要

日曜日 10時～12時

14組の参加
(お子様17名、保護者14名)

日程	講座テーマ	詳細
6月23日(日)	体力のお話と運動 ①柔らかさとは？	体力測定と柔らかさを伸ばす運動
7月28日(日)	体力のお話と運動 ②粘り強さとは？	体力測定と粘り強さを伸ばす運動
10月27日(日)	体力のお話と運動 ③すばやさとは？	体力測定とすばやさ伸ばす運動
12月15日(日)	体力のお話と運動 ④バランスとは？	体力測定とバランスを伸ばす運動

講座の構成

各回テーマ

① やわらかさ

② ねばり強さ

③ すばやさ

④ バランス

測定



運動



学生



体力測定の様子(バランス)



(上田ほか, 2006; Moreira et al., 2019)

運動指導の様子



学生

児童福祉センター 児童発達支援センター 児童発達支援センター

「子どもの体力向上プログラム」テーマ③ バランス

やわらかさ
ねばり強さ 体力と運動特性 力強さ
すばやさ バランス

なぜ「バランス」は必要？

バランスとは、身体にかたあして姿勢をキープする際の能力ではありません。スポーツや運動をする中で、やわらかさ、ねばり強さ、ちからつよさ、すばやさなど、すべてをもちからタイミングよく発揮することも(バランスに当たります)。また、からだやどくづくのついかたも(バランス)に当たります。バランスがよく

「バランス」を伸ばす運動プログラム

準備体操
おしりストレッチ おじぎストレッチ ランジストレッチ
バランスの運動
レッグスイング (前後・左右) タンデムバランス・ボールツイスト
からだ・ボール操作の運動
足で宝探し? ミニボール移動

氏名					年齢		
じぶんの「バランス」をチェックしよう!						合計得点	
種目	じぶんの記録				得点	小学生の平均	
	8歩進点	1回目	2回目	3回目		合計点	58点
	6cm						
バランス こまを 前方あるき	4.5cm						
	3cm						
からだを 滑りよこす 連続よここぎ	15秒間で棒の上を越えた回数	1回目	2/20回目			73点	
よここぎを 繰り返す	30秒間で台に乗り移った回数(両足のせれば2点)					47点	



バランスの得点表



得点	バランス後方歩き	連続よことび	横移動
10	65回以上	86回以上	56以上
9	61~64	81~85	52~55
8	56~60	76~80	48~51
7	51~55	71~75	44~47
6	45~50	64~70	40~43
5	39~44	57~63	36~39
4	33~38	51~56	32~35
3	27~32	46~50	28~31
2	21~26	41~45	25~27
1	20点以下	40点以下	24点以下

参加者との交流会でみえた課題

- 保護者は子どもの運動の機会を求めている。

強化部の運動教室



認知 ×

北区だより

- 地域への部活動移行に対する不安

送迎

指導者

大学生への期待

講座1の総括

「子どもの体力向上プログラム」をテーマに、子どもの体力測定と運動指導を実施し、参加者との交流会を通じて、今後の大学北区連携に関して以下の点が挙げられた。

- 北区で子育てしている親は、子どもの体力向上につながるような運動の機会を求めている。大学強化部が開催している各種運動教室の認知は低く、北区だよりなど行政と連携した情報発信をすることで、北区の子どもたちが運動する機会を増やすことができると考えられた。
- 部活動の地域移行に不安を抱えている親が多く、不安要素の大きな点としては「送迎」と「指導者」があがった。大学との連携では、本学健康スポーツ学科の学生が指導者としての役割を担うことに期待の声があがり、「次代の指導者育成」が大学として求められていると考えられた。

北区大学連携 未来のまちづくり事業 講座 2
ー心も体も健幸プロジェクトー 2025



学びましょう 感じましょう
楽しく こちよく
鍼灸治療体験講座
2024年7月～12月

鍼灸健康学科 ○江川雅人、金子聡一郎、福田晋平

講座の目的

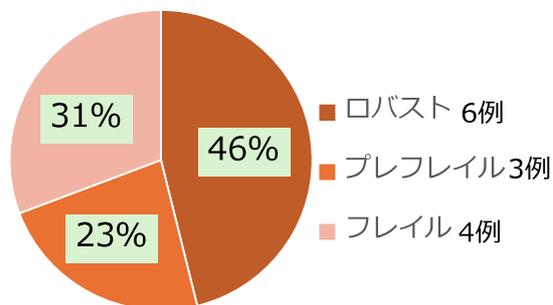
- ・ 鍼灸治療を知る（歴史、治療具、適応範囲）
- ・ 新潟医療福祉大学附属鍼灸センターを知る
- ・ 鍼灸治療（温灸）を体験し、その効果を知る
運動機能：筋力（握力）、柔軟性（前屈距離）
バランス能力（FRT値）
口腔機能：最大舌圧値
中枢神経機能：100マス計算

- 第1回** **鍼灸学の学び（その1）**
 ミニ講座「鍼灸（しんきゅう）治療を知りましょう
 -新潟医療福祉大学附属鍼灸センターの紹介-」
 体験講座「チェックシートで『わたしの身体』を知りましょう」
- 第2回** **鍼灸学の学び（その2）**
 ミニ講座「鍼灸の歴史と鍼灸治療具」
 体験講座「鍼灸治療は心地いいよ体験-あなたの気になる症状は?-」
- 第3回** **温灸治療による体の変化【運動機能】**
 ミニ講座「健康のため筋力・柔軟性をUpしましょう」
 体験講座「つば刺激による筋力と柔軟性の変化」
- 第4回** **温灸治療による体の変化【口腔機能】**
 ミニ講義「健康のため飲み込み機能を維持しましょう」
 体験講座「つば刺激による口腔機能の変化」
- 第5回** **温灸治療による体の変化【中枢神経機能】**
 ミニ講義「健康のためストレスを緩和しましょう」
 体験講座「つば刺激によるストレス状態の変化」

対象者

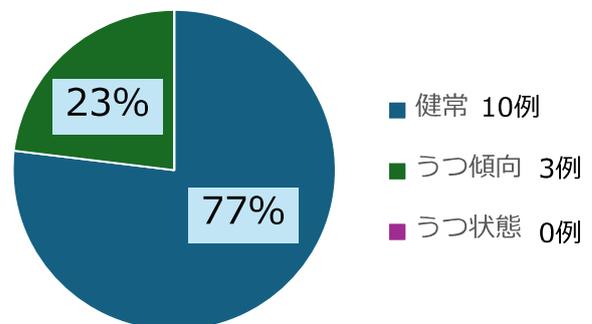
参加者：14名（M/F：2/12） 66.0±12.9歳

フレイル度
測定者数13名



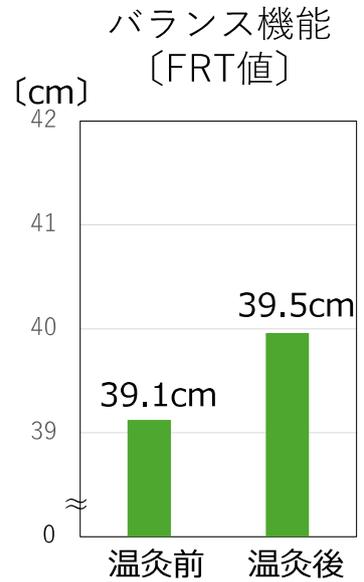
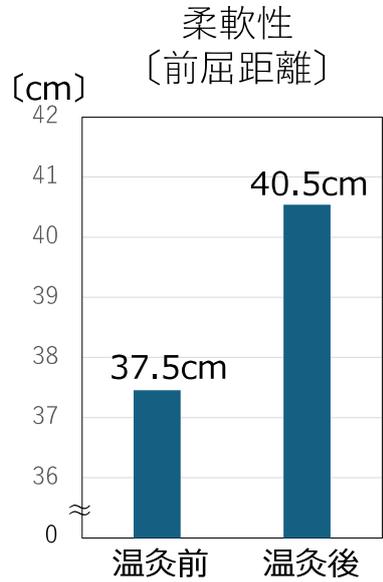
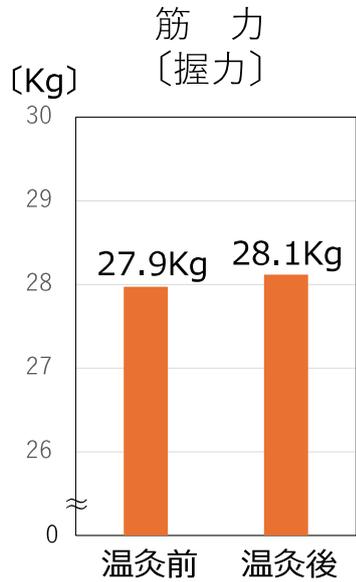
基本チェックリストによる調査
 全国平均：フレイル11.5%

抑うつ度
測定者数13名

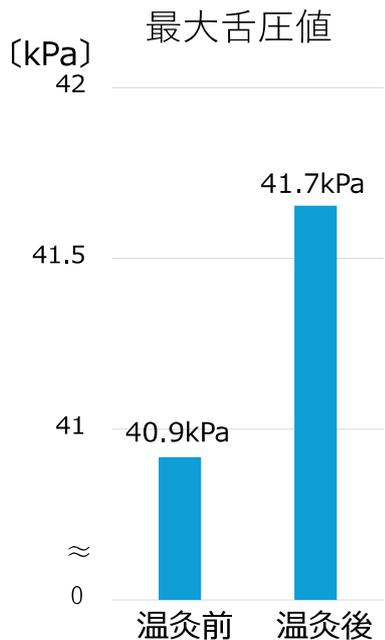


GDSによる調査
 全国平均：高齢者の気分障害 31.7%

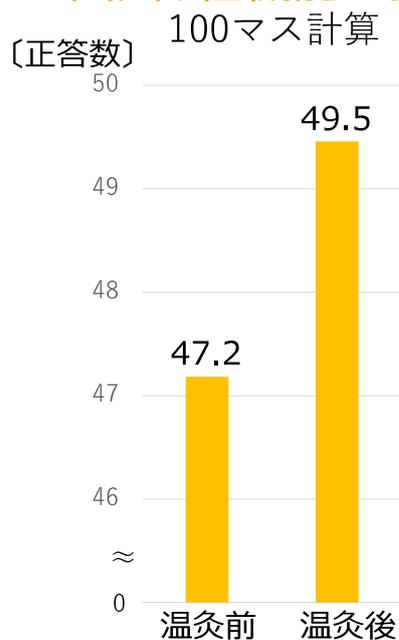
運動機能の変化



口腔機能の変化



中枢神経機能の変化



運動機能の変化
口腔機能の変化
中枢神経機能の変化は、
各個人ごとのデータ
も参加者にフィード
バックされた。



交流会における参加者の声

- ・ 講義、鍼灸、先生のバイタリティとすべてよかった。
- ・ 資料は、1、2枚でいい。たくさんあると読まない。
- ・ 資料は書き込むところがあるといい。
- ・ 今度は、家庭で取り入れられるつぼの講座をしてほしい。痛みに効くつぼなど。
- ・ 今回の講座では、最終回にすべての報告があるが、できれば、毎回前回の報告を少しでもしてもらえると張り合いになるし、いいと思う。
- ・ 認知症、うつ病についての話は、自分が数年前に経験しているので、聞いて良かった。現在は、うつ病から脱出でき、このような場にもこれるようになった。非常にありがたく思っている。
- ・ みんなの話をしっかり聞けるよう、マスクを外した環境で話せる会にしてほしい。
- ・ 「地域の茶の間」など、地域の方が集まる機会に今回のような講座をしてもらえるともっと多くの方が鍼灸治療のよさを知るきっかけになるのではないかと。また、同時に自分の健康について考える機会にもなる。
- ・ 大学と地域と一緒に医療、福祉を考える地域になってほしい。身近に学生がいる環境を増やしてほしい。
- ・ 講座では、細かいところまで詳しく教えてもらったし、データも出してもらって非常に良かった。気軽に話し合える先生(医者)が増えてほしい。
- ・ 岡方地区でフレイルチェックがあり、そのあと1、2回簡単な解説があったが、それ以上がなく、継続性がなかった。今回のような講座が地区で有ったらいいと思う。
- ・ 温灸治療をもっと各地区に入って教えてもらえると、地域の健康に役立つ。自分の体を知ることから、体を気遣うようになるのではないかと。
- ・ セルフケアや身近なストレスのツボなど教えてほしい。
- ・ 今回の講座の成果、データを広く知ってもらうために、市報にいがたや北区だよりに掲載するべきだ。
- ・ 個人的にはまた同じ時間、月曜日にやってほしい。
- ・ 自分でセルフケアの方法を聞いてやるのもいいが、誰かがずっとやる側、もう一方がずっとやってもら側でいるのではなく、お互いが治療をしあったりできる関係でやれるようもう少し深く教えてもらいたい。継続して、お互いにやりあう関係が地域に広まるのがいいのではないかと。
- ・ 岡方地区で以前に5、6回で、大学の先生と学生が、一緒にまちを歩いたりして健康づくりを行う内容の講座に参加したことがあり非常に良かった。そんな講座があるといい。

講座 2 総括

- ・ 北区大学連携未来のまちづくり事業ー心も体も健幸プロジェクトーは「学びましょう 感じましょう楽しく こちよく鍼灸治療体験講座」と題して2024年7月～12月まで計5回開催された。鍼灸健康学科からは3名が対応した。
- ・ プロジェクトの目的は、鍼灸治療と本学附属鍼灸センターの啓発、および温灸を体験してその効果を知ること、とした。
- ・ 参加者は14名（M/F：2/12） 66.0 ± 12.9 歳であった。
- ・ 5回のプロジェクトは無事に開催され、体験およびデータは参加者にフィードバックされた。参加者の満足度も高いと感じられた。
- ・ 学生の参画は次年度以降に行うこととした。

講座3

「自身の体を知り、健康増進・転倒予防・
関節予防を行っていきましょう！」



概要

日程	講座テーマ	詳細
7月20日(土) 10:00~11:30	身体測定会 (筋力・バランスなど)	身体計測会・結果説明 学生参加
8月20日(火) 10:00~11:30	ミニ講話・予防① 転倒予防	転倒 (筋力・バランス・柔軟など)
9月17日(火) 交流会①	ミニ講話・予防② 肩痛予防	関節痛 (肩痛など) 学生参加
10月15日(火)	ミニ講話・予防③ 腰痛予防	関節痛 (腰痛など)
11月19日(火)	ミニ講話・予防④ 膝痛予防	関節痛 (膝痛など)
12月17日(火)	全体のまとめ	

地域住民と学生との交流会： これまでの講義の感想

- これまでわからない所(自身の姿勢)が理解できた
- 運動のやり方を修正し教わることができた
- 気づかないうちに加齢に伴い体は変化していることに気づいた
- 自分の体に合った運動を行わないとけがや負担につながる
- **自分の体の状態を知れた**うえで、時間のかからない方法を知った
- **自分の体について理解ができ**、大変参考になった
- 人と関わる事がなかったため**良い交流の場**となった
- 大学との連携があることで信頼性が高く、商売でないため押し売りがないため良い
- これまでに自身の体について悪いところがわかって指導をもらうことがなかったが今回の講義は指導がしっかりとあるため良かった
- 一度転んでしまい寝たきりになるかも知れなかったが回復した。これからまた怪我をしても寝たきりにならないように対策していきたい

地域住民と学生との交流会： これからの北区のためになること

地域在住の方々

- このような講座を継続して続けてほしい
- **防災に関する講義を増やしてほしい**。体力が無いと避難できないので、関連付けになる
- 最後にも測定があると、変化がみられるのでモチベーションにもなるので、検討してほしい
- 新発田市で実施していた**福祉イベント**を、北区でも行ってほしい
- **大学の他学科の講義も聞いてみたい**
- **大学見学をしてみたい**
- 声をかけることに戸惑いを感じてしまう

参加学生

- 県外から新潟に来て一人暮らしをしているので、このような地域の方と触れ合える機会があるとありがたい
- これまで気まずいと思っていたが、地域の方々に普段から挨拶することを心掛けたい
- 学生から能動的に挨拶するのは、壁が大きいですが、声をかけられてからのコミュニケーションは比較的取りやすい
- 慣れない土地で地域の方に声を掛けられることは安心につながり、双方にとって輪の広がりに繋がり、コミュニティの拡大につながる

講座3の総括

- 講座3では「身体測定会」が1回、「ミニ講話」が4回、学生参加による「交流会」が1回行われた。
- 参加した住民からは「自身の姿勢が理解できた」「自分の体の状態を知れた」「自分の体について理解できた」など、好意的な意見が聞かれた。
- 一方、「せっかく身体測定会を行ったので、変化を見なかった」という意見もあった。短期間のため、変化を認めるのは難しいと思われる。来年度以降も継続的に行うことで、1年後の変化をフィードバックする機会を作ることも必要と思われた。
- 「これからの北区のためになること」というテーマでは、地域住民の声だけでなく、学生の意見も含めた交換会が行われたことで、建設的な交流会になったと思われた。

講座4

災害発生！その時どう動く!?
～答えのない戦い～

医療技術学部 救急救命学科

高橋 司

講座内容

学生スタッフは全員
防災士資格の取得者

■ (1回目) 7月16日(火)14:30～(2時間程度)

- テーマ : Yes or No～正解のない災害対応～
- 内容 : 災害対応カードゲーム「クロスロード」を用いた災害時のジレンマの体験
- 参加者 : 北区居住者11名+救急救命学科3年生1名(学生スタッフ)

■ (2回目) 8月06日(火)14:30～(2時間程度)

- テーマ : その時どう動く!?～机上での避難活動～
- 内容 : 避難所運営ゲーム「HUG」を用いた避難所での出来事・運営の机上体験
- 参加者 : 北区居住者10名+救急救命学科3年生3名(学生スタッフ)



1回目 災害対応カードゲーム クロスロード

- 阪神・淡路大震災で実際に起きた問題を、京都大学・慶応義塾大学の研究チームがゲーム化したものです。
- どちらを選んでも何らかの犠牲を払うようなジレンマを前に、参加者は苦心の末に「Yes」か「No」か、1つだけを選びます。
- ゲーム内で多数派はポイントを獲得できませんが、このやり取りを通して様々な価値観や視点に出会うことができます。
- 災害を自分事として考えるためのきっかけと、**正解がない事象を学ぶことの動機付け**として実施しました。

例:あなたは川沿いの集落の住民です。
母(65歳)・妻・小学生の子ども2人の4人家族。
激しい雨が降り続いている。今、洪水の危険があるとして集落に避難勧告が出たことを防災無線で知った。しかし、現在深夜12時。

問:今すぐ、避難を始める?

- YES すぐに避難する
- NO しばらく様子をみる



参考:内閣府 防災情報ホームページ
https://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h20/11/special_02_1.html

2回目 避難所運営ゲームHUG

- 避難所運営の啓発の目的に静岡県が開発し、避難所・運営・ゲームの頭文字から「HUG」と命名されました。
- 避難所を模す平面図には様々な避難者が集い、そこで発生する様々な出来事にどう対応するかを模擬体験するゲームです。
- ゲーム内における**正解がなく**、ゲームでの体験を通して参加者に**気づきを与える**のが目的です。
- 気づいた点を居住地に落とし込むことで、**災害準備の啓発を図る**ことを狙いとしました。



参考：静岡県地震防災センターホームページ

<https://www.pref.shizuoka.jp/bosaikinkyu/sonae/earthquake/bosaicenter/1003638/1043919/1030041.html>

交流会での声

■ 参加者の感想

- ゲームでも、その場でスピード感を求められるのが非常にプレッシャーでした。ルール決めが事前にできればいいけれど、ケースバイケースなのでそれが難しい。これが現実になったら恐ろしいと感じました。避難所運営の責任を切に感じました。
- 高齢者や体の不自由な方の避難の仕方を各自治会で考えていく必要がある。町内でも連絡を取り合っていないのでいざというとき連絡し合えない。互助のためには日頃からのコミュニケーションが必須。
- 地域の方々自らで、よりよい避難所にするための動きが必要。共助を強めていく事が大切。

■ 地域の課題・要望（次年度に向けた北区役所からのまとめ）

- 地域に入り、大学、防災士(学生)がサポートしながら事前準備できる防災対応の想定訓練を一緒に行えたらよい。
- 各地域の状況に応じた対応策、各自が準備すべき具体的行動についてなど。

講座4の総括

- 北区居住者を対象に、災害準備に関する啓発を図ることを目的に講座を行いました。
- 2024年1月に能登半島地震が発生した背景もあり、動機付けと啓発が上手く接続し、実施後の参加者からは、自発的な災害準備意識が伺えるような反応が見受けられました。
- 参加後の学生スタッフからは、我が国における地域防災の現状の理解と、救急救命士・防災士としての責務の大きさの一端を感じることが出来たとの声が聞かれました。
- 本学が地域の防災教育に関わることで、災害準備の一助となれる可能性が垣間見えた講座でした。

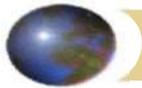




北区大学連携「未来のまちづくり」事業
心も体も健幸プロジェクト

【講座5】
留学生と学び、体験しよう！
～留学生による国際理解・体験講座～

大学院・国際交流課 桑島 己都子



講座の概要

- ◆ **会場**
ラゲーナスクエア まちなかキャンパスおよび調理室
- ◆ **受講者**
定員15名 参加申し込み状況:8名
- ◆ **開催日時および講座テーマ**

回	日程	時間	講座テーマ
1	11月9日(土)	10:00～11:30	ベトナムを知ろう！
2	11月23日(土)	10:00～11:30	タイを知ろう！
3	12月14日(土)	10:00～12:30	スリランカ・カレーを作ろう！ 交流会



第1回目「ベトナムを知ろう！」

◆ 講演者

ベトナムの留学生2名

- 1) 医療福祉学研究科 医療福祉学専攻3年生 Le Thi Ha
- 2) 医療福祉学研究科 医療福祉学専攻3年生 Le Cong Dat

◆ 受講者

申込者8名のうち
当日参加:6名



第1回目「ベトナムを知ろう！」

◆ 講演内容

- ◆ ベトナムの風土、歴史、文化を紹介し、クイズ形式で参加者一体型のセミナーを行った。
- ◆ ブレイクタイムにはベトナムコーヒーやフルーツティーを提供し、現地の味を体感してもらいながら留学生と地元住民との交流を行った。





第2回目「タイを知ろう！」

◆ 講演者

タイの留学生1名

医療福祉学研究科 保健学専攻 言語聴覚学分野1年生

Jidapa Prasoppolsujarit

◆ 受講者

申込者8名のうち

当日参加:7名



第2回目「タイを知ろう！」

◆ 講演内容

- ◆ 前半はタイの風土、文化、言語を紹介する座学を行った。

- ◆ 後半はタイ語の文字を書く練習を行い、参加者自身の名前をタイ語で書いた葉を作る体験型のセミナーを行った。





第3回目「スリランカ・カレーを作ろう！」 交流会

講演者

- スリランカの留学生2名
1)医療福祉学研究科 保健学専攻 理学療法学分野2年生
Samarakoon Mudiyansele Chamini Sewwandi Samarakoon
2)医療福祉学研究科 保健学専攻 理学療法学分野1年生
Jayasinghe Hewanayakage Chamoda Bimali

- 外部講師1名
平田 クスマラター 様(スリランカ出身)

- サポート
医療福祉学研究科 保健学専攻言語聴覚学分野1年生
Jidapa Prasoppolsujarit(タイ出身)

受講者

申込者8名のうち 当日参加:6名
北区役所職員 佐藤 様



第3回目「スリランカ・カレーを作ろう！」 交流会

講演内容

- 外部講師を中心とした指導のもと、スリランカ料理で使用する食材やスパイスの解説を行いながら、参加者と共にスリランカ料理を作った。
- 食後は北区役所職員を中心に交流会を実施し、「外国人が住みやすいまちづくり」について話し合った。





講座1の総括

- ◆ 「留学生と学び、体験しよう！」をテーマに、各国出身の留学生が講師を務めた。母国の文化や風土の説明を中心とした座学と、体験型の講座内容により、参加者である地元住民の国際理解を深めた。
- ◆ 交流会では「外国人が住みやすいまちづくり」をテーマに話し合いを行った。外国人の視点や地域住民の視点から様々な意見が出され、活発な意見交換会となった。
- ◆ 異国の文字の練習や、共同作業を伴う料理など体験型の講座内容のため、講師である留学生と参加者との距離感が近く、自然と会話が弾んだ。また交流会では地域の課題や国際理解についてお互いに考える機会になったため、参加者、留学生の双方にとって異文化理解が深まる場となった。

講座 6

なぜスポーツは面白いのか？教養としてスポーツを学ぼう！」

健康スポーツ学科 西原康行

実施日	2024年8月19日, 26日 9月2日, 9
参加者	3名 (60代男性1名, 女性 2名)
テーマ	教養としてのスポーツ文化 (現代スポーツ論)



課題

- 参加者を増やすという意味でのテーマ設定 (ニーズに合っていない)
- 学生を参画させていない

講座6 総括

- ・教養講座であったため、参加者が少なかった。（住民ニーズにあっていない）
- ・ただし、参加された3名は、毎講座後、ディスカッションに積極的であり、充実したと考えられる。（以下、北区地域総務課取りまとめ報告より）

- ・スポーツについて、いろいろな視点での話が聞けて大変勉強になった。
- ・スポーツのまじめな話だけでなく、オリンピックの裏話や先生との雑談が非常に面白かった。
- ・スポーツを通していろいろな雑談が広がるのが面白い。
- ・高齢者の中で、フレイル予防など言われているが、その基本となる筋力をつけること、空間把握能力を育むことなどからはじめることが大切だということが知られていないと思う。そうした運動遊びを積極的に地域で取り入れていくべきだと感じた。
- ・現在問題になっている中学校の部活動地域移行について、地域できちんと理解して話し合われていない。西原先生から、今日お話しいただいたことなどコミュニティ協議会で話してほしい。

- ・参加予定の学生が感染症のため、参加できなかった。

北区大学連携 未来のまちづくり事業
2024年度報告書

2025年2月発行

作成・執筆

新潟医療福祉大学

健康スポーツ学科

鍼灸健康学科

義肢装具自立支援学科

救急救命学科

国際交流課

社会連携推進課

西原 康行

三瀬 貴生

江川 正人

金子 総一郎

福田 晋平

佐藤 成登志

神田 賢

高橋 司

桑島 己都子

佐々木 俊太郎
